

令和4年度後期 卒業証書授与式 卒業生代表挨拶

事務部 番場 晴美

卒業式に読まれた卒業生代表挨拶をご紹介します



本日卒業式を迎えるにあたり、まずは、保護者の皆様、校長先生をはじめとする諸先生方、この度は、このような式を開いていただきありがとうございます。

私の中学生生活は勉強せず、ほぼ毎日遊んでばかりの生活を送っていました。そのため、高校進学への考えはなく、中学卒業後は、幼い頃からずっと好きだった車に携わる仕事へ就く予定でした。それは『誰よりも早く社会へ出て経験を積んでやる』という強い思いがあったからです。しかし、父から「高校卒業資格を持っておいた方が、これからの将来のためになる」といわれ、私自身考えを改めた結果、高校への進学を目指す事になりました。

私は父と色々な高校を探している中見つけたのが、ここ八洲学園大学国際高等学校でした。自分自身、仕事と勉強の両立が難しいと自覚していたため、『年に一回沖縄へ行き勉強と試験を受ける事ができればいい』という条件に目を引かれ、八洲へ進学する事を決意しました。

入学してから参加した沖縄短期集中スクーリング。年に一回、六泊七日しかない中で、色々な人と話して、勉強して、食事をとり、遊んで、寝て、そんな何気ない学生らしい日々を送れたことが何よりの思い出です。注意されたりもしたけど、ここで繰り広げられた時間全てが私にとって大切な思い出となりました。

高校卒業を迎え、感謝したい人はたくさんいます。やんちゃな私を、短い期間ではありましたが、親のような目で面倒を見てくださったナカマサ校長先生をはじめ、八洲の教職員の先生方、三年間、温かく見守って下さりありがとうございました。無事卒業を迎えることができたことを、卒業生代表として、御礼申し上げます。本当にありがとうございました。そして、スクーリングが終わり、各自地元へ帰ってからも、事あるごとに連絡をくれ、仕事で疲れている私を、たくさん支え励ましてくれた八洲の仲間にも感謝しています。六泊七日という短い時間を共に過ごし、笑いの絶えない最高の時間を送ることが出来たことがとても嬉しかったです。ありがとう。みんなと過ごした日々を私は忘れません。





最後に両親へ。どうしようもないくらい、遊んでばかりいた私を三年間支えてくれてありがとう。仕事と学校の両立がなかなか出来ず、いつも勉強は後回し。そのせいで、課題提出期限ギリギリなのが毎回だった私を叱り、正し、どんな時でも傍で支え、色んな世界を見せてくれたことに感謝しています。本当にありがとう。次は、夢実現のために絶対に資格を取得し、夢を叶え、親孝行する事を約束します。まだまだ迷惑かけるとは思いますが、これからもよろしくをお願いします。

そして、在校生の皆さんへ伝えたい事があります。世の中は、どんなに素晴らしい行い、どんなに世の中の為になる行動、世界の人々が幸せに暮らす事が出来る発明をしたとしても、必ず賛成と反対、両方の意見、賛否両論があります。同じく、これから皆さんが、たくさんの選択、そして決断、それに伴う行動をするにあたって、必ず賛否両論があります。どうか皆さんは、賛否両論や失敗を恐れず、何事にも挑戦してみる勇氣を持ち、自分の出来る範囲内で努力し、自分の思い描いた未来へ近づく事が出来るよう、行動して下さい。自分に自信を持って行動すれば、そこに近づく事が出来ると思います。仮にその結果が、自分の思い描いたものでなかったとしても、絶対に他人や周りのせいにしないで下さい。そして良い結果の時には、皆さんの周りの人達のおかげでもあるため、周りの皆さんに心から感謝して下さい。どうか、今お話した事を胸の内に留めて頂き、在学期間が有意義なものとなるように、自分の出来る範囲内で、精一杯努力し、頑張ってください。私も、皆さんの先輩、そして仲間として、恥の無いように、精一杯努力し、頑張ります。

私は夢を叶えるために、高校一年生の時から目指していた自動車専門学校へ進学します。五年間の専門学校生活を通して自動車に関する資格を全て取得するつもりです。そして、アメリカの車屋で働き技術を習得したいと考えています。夢を叶えるまでは、長いようで短く、あっという間に時間が過ぎていくかもしれませんが、一日一日を大切に頑張っていきたいです。最後にあらためまして卒業生を代表し心より感謝申し上げます。これまでの在学期間本当にありがとうございました。



令和5年2月26日 卒業生代表 加藤修也



本日は、私たち卒業生のために、このような盛大な式を挙げていただきましてありがとうございます。



八洲学園大学国際高等学校で過ごして6年…私が八洲学園大学国際高等学校に入学するきっかけとなったのは、母が八洲学園大学国際高等学校を見つけてくれた事でした。沖縄が好きで家族旅行へ行く事もあり、『大好きな沖縄に学校があるっていいな』その思いから八洲へ入学する事になりました。

小・中学校時代、不登校だった私は、何があったわけでもなく、ただ、学校で過ごす時間に疲れ、通う事が出来なくなりました。そのため学校に行き終えたと言う経験がなく、卒業式も参加できず、やり切った気持ちを感じる事がないまま後悔が残っていました。

八洲学園大学国際高等学校へ入学し、初めて参加した沖縄集中スクーリングは7月。初めての環境に不安や心配が消えず途中帰宅。『頑張ろうと思う自分』と『頑張れない自分』の間で心が揺れ、自分自身を許せない時期がありました。2回目のスクーリングへ挑戦しましたが、再び途中帰宅。あの頃の私は、家族と離れると不安になり、自分に自信がなく、すぐホームシックなっていました。2回目に参加した際も、帰る私を説得しようと先生や母が話をする中、必死に帰るための理由をつくっていたことを今でもよく覚えています。

一人でスクーリングへ行くことが難しくなり、母と一緒に参加したスクーリング。とにかくスクーリングをこなすことが必死で友達を作る余裕もなく、人見知りもあって周りの人へ話しかける事が出来ず一人授業をこなす事で精一杯でした。そのような中、科目の有効期限切れや再登録をくり返し、『いつ自分は卒業出来るのか』先が見えなく、とても不安な毎日を過ごしていた私。

再び科目の有効期限切れが迫っていたため、今年度に入り数年ぶりに沖縄集中スクーリングに参加しました。期間が空いたにも関わらず、先生たちが温かく迎えてくれ、私は忘れられていなかったんだと嬉しさを感じました。初めてスクーリングに参加してから6年…一人で何かをする事が不安だった私が、こうしてスクーリングへ参加する事が出来たのは、たくさんの方の支えがあったからです。初めは頼ることもできず、自分ひとりで抱え込んでいた時期がありましたが、今の私は『本当の自分を出して人に頼っていいんだよ』と自分自身へ言ってあげることが出来ます。これは八洲学園大学国際高等学校にいた6年間で私自身が強くなった証だと感じています。私は八洲学園大学国際高等学校へ入学し、勉強することの楽しさ、今まで感じたことのなかった学校の楽しさを知りました。そして『自信』を取り戻すことが出来ました。



八洲学園大学国際高等学校は他の学校と大きく違います。先生しか入る事ができないというイメージの職員室も、八洲学園大学国際高等学校は先生方が温かく迎え入れてくれます。私は、人に疲れてしまう事があり、そういう時は少し上の方と過ごす事で落ち着くところがあります。そんな私にとって八洲学園大学国際高等学校の職員室は本当に居心地がよかった。こうして先生方と職員室で過ごす事が出来た時間があったから、スクーリングを頑張ることが出来たのだと感じています。スクーリングに参加し、慣れない場所、初めての人達と過ごす6泊7日は本当にきつく早く帰りたいと思っていた6年前の私ですが、その経験が自分の自信や成長に必ずつながるという事を、私はこの六年間で経験しました。



私が今22年間生きてきて自信を持って言える事、それは『人生に無駄はない』という事です。自分が受ける試練や壁、『どうしてだろう』と思う事や絶対無理だと感じる事もたくさんありましたが、今では良い思い出です。私は高校を卒業するまで人より長い時間がかかってしまったけど、八洲学園大学国際

高等学校に 6 年間いたから出逢えた人、経験、想いがあると感じています。そして、全てが今の私にはすごく大切なものになっています。始めはスクーリングをこなす事に必死でしたが、この活動が楽しみだと思ったり、友達と過ごす時間が楽しかったり、友達と離れるのが寂しくて帰りたくないと思えるほど、この六年間を通して、私は強くなり成長する事が出来ました。

先生方、いつも温かく迎えてくれてありがとうございました。八洲学園大学国際高等学校の先生はいつも親身に接してくれて愛でいっぱい最高の先生です。卒業は嬉しいけれど先生たちに会えなくなるのがとても寂しいです。そして、担任の裕美先生。裕美先生がいなかったらここまでくることが出来ませんでした。いつも支えてくれて、たくさん話を聴いてくれて、ありがとう。裕美先生は私の心の安定剤です。そして一生忘れない私の恩師です。八洲学園大学国際高等学校へ入学して先生方に出逢う事ができ、とても幸せでした。本当にありがとうございました。

そして、母へ伝えたい言葉があります。

『お母さん、この学校を見つけてくれて本当にありがとう。私は素敵な学校に出逢う事が出来ました。お母さんには今までたくさん心配をかけたたり困らせてしまったりしてきました。壁にぶち当たった時、一緒に立ち止まってくれたお母さん、たくさん話を聴いてくれて解決方法を見つけられました。お母さんの子どもで本当に良かった。お母さんは私にとって最高のお母さんです。ありがとう。』



私はこれから、沖縄にあるフクギのように、しっかりと心の根を深くまで張る事が出来る強くて大きな人になりたいです。フクギはゆっくりと成長します。雨にも風にも負けません。台風などの大風が吹いても倒れにくい木です。私が進むスピードはゆっくりかもしれないけど、心の根を張り、何があっても『大丈夫』という強い気持ちを持つ事が出来る人になっていきます。

八洲学園大学国際高等学校で過ごす事が出来たこの 6 年間は私の人生の宝物です。この学校に出逢えて本当に良かったです。支えてくれた先生方、家族、友達に心から感謝しています。ありがとうございました。

令和 5 年 2 月 26 日 卒業生代表 渡邊 優月